

(様式1)

# 平成29年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立 山田中 学校  
校長： 増田 和幸

項	・重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばすに	・一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図る	・「学ぶ力・生きる力向上支援員」の配置や新学習システムの活用によって複数指導の学習指導形態や別室指導でつまづきのある生徒、配慮を要する生徒に対する支援がしやすくなった。	A	・山田中学校の実態に即した合理的配慮の在り方についての研修を行う。そのことにより、より効果的な複数指導、別室指導を行い、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図る。	カウンセリングの時間をしっかり確保して下さい。小中の情報交換があり、ありがたいです。心の教育のためには子供たちが気安く声が出る環境を作ることが大切です。スクールカウンセラーの情報を保護者にも、もっと伝える方法があればさらに身近になるのかもしれない。
	・確かな学力の育成、力のある授業の推進(協同的な学びをテーマに力のある授業を展開する)	・主体的・対話的で深い学びを意識して「協同的な学び」を取り入れた学習活動により、自ら考える機会を設定し、他者との考えの違いを、言語を用いて説明しようとする態度の育成に努めることができた。	B	・どの教科でも「協同的な学び」を取り入れ、活発にロールプレイ等を行い意欲的に学んだ。個々の生徒への支援として、意欲を引き出す工夫、基礎学力を伸ばさせる方法を引き続き検討していきたい。	
	・心の教育の充実	・道徳教育の充実時間が十分なかった ・カウンセリング週間時間がとれず十分にでないことがあった。 ・カウンセラーの活用	B	・道徳の時間の確保 ・カウンセリング週間の時間の確保 ・スクールカウンセラー等と教員の連携	
	・特別支援教育の充実(特別支援的な視点を持って教育活動を展開する)	・特別支援コーディネーターや学校生活支援教員、SCと連絡を密にとり支援を要する生徒、保護者に対して適切にアプローチすることができた。その結果、生徒にも変容がみられた。	A	・特別支援コーディネーターや学校生活支援教員、SCとの密な連携により、支援を要する生徒、保護者に対する、特別支援的な視点を持った教育活動、アプローチをより一層推進していきたい。	
教職員を磨き、学校の魅力と力を高める	・教育活動に関する情報発信の充実(学校だよりやHP等により情報発信の充実を図る。授業公開ウィークを継続的に実施するとともに、保護者による授業アンケート等を行う)	・学校だよりや学年だより、また、図書や保健委員会のたより等、適切な話題、タイムリーなホームページ更新を行った。年3回の授業公開ウィークを実施し、保護者アンケートを行った。また、授業公開を通して、教員の資質向上が図れた。	A	・学校だより、ホームページの更なる充実を目指す。また、授業公開の時間設定など参加人数が増える努力をしていきたい。	今年の事例研究のようなかたちがよいと思います。学校行事の変更等をもっとホームページに入れてもらえると助かります。
	・いじめ未然防止・早期発見・早期対応策の充実(「山田中学校いじめ防止基本方針」に沿って、未然防止を中心に組織的な取組を推進する)	・山田いじめ防止小中地域会議を行い、児童生徒の意識を高めた。地域の方々にも参加していただき、地域全体としての取組を進めた。また、いじめ防止のため、道徳授業の充実にも取り組んだ。	A	・山田いじめ防止小中地域会議では、PTA、地域の方々、関係機関等多くの方々にも協力していただいた。今後も児童生徒にいじめ防止の意識をさらに高める取組を考えていきたい。	
	・校内研修の充実(本校の実情に合わせ校内研修を実施し教職員の資質向上を図る)	・例年実施している服務や学習に関すること、生徒指導に関すること以外に、人権学習の一環としてのいじめ防止に関すること、発達障害に関することについても研修を行った。	A	・全職員がさらに意欲的に参加し、研修での気づきや身につけたものを実践できるよう、計画を工夫していきたい。	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	・キャリア教育・体験学習の推進(外部講師による「出前授業」、トライやる・ウィークにより、発達段階に応じた職業観を育む)	・外部講師による性教育やKICP、さらに、物づくり体験、プレ親学習、トライやる・ウィーク等によるキャリア教育を行うことにより、生徒も自分自身の将来を見つめることができた。	A	・教師の工夫により、生徒が興味を持ち保護者も参加することができたとともに、外部講師を無料で依頼することができた。また、キャリア教育を通して、生徒同士のコミュニケーションが深まり、進路に対してよりよい話し合いができると考えられる。	トライやる・ウィークにむけて事前研修・事後報告をお願いします。小中連携をさらに進めていきたいです。トライやる・ウィークの目的を徹底し効果のあがるようにしてください。故郷に愛着を持てるような活動、授業への取り組みを行ってほしいです。
	・伝統文化の教育や地域学習の推進(身近な地域の伝統文化の学習を通して、地域学習の充実を図る)	・地域行事への参加や地域学習により、地域に対する愛着や誇りを持つことができた。伝統文化(琴)の学習では外部講師による充実した活動ができた。	A	・地域に関する再発見ができ、地域に対する誇りを持つことができた。計画的かつ系統的に実施できれば、さらによいものになると考えられる。	
市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	・家庭・地域との連携強化(地域行事、ボランティア活動への積極的な参加)	・左義長やクリーン作戦等、地域貢献活動として参加し、地域の方々とコミュニケーションを図るとともに連携を強化することができた。	A	・積極的に地域貢献活動ができた。さらに、保護者・地域を巻き込んで、より効果的な活動へのアプローチが必要である。	あいさつはコミュニケーションのはじめであり、推進するのは良いことであるが、反面、知らない人との接触は事件につながる事があるので要注意です。山田川クリーン作戦をはじめ地域の行事はこれからも積極的に関わって下さい。
	・あいさつ運動の推進(PTAを中心に「あいさつ・手伝い運動」を推進し、地域ぐるみの子供の育成と生活習慣の向上に努める)	・PTAを中心に「あいさつ・手伝い運動」を行い、地域で子供たちの育成や生活習慣の向上に努めた。笑顔で登校する生徒が増えた。	A	・PTAと連携して「あいさつ・手伝い運動」の報告をホームページに掲載する。	

\*セルの数や大きさは、変えていただいてかまいません。